



元気っ子

No 345 ながさわ保育園

園長

中瀬 弦 偉

先月にご家庭で実践しやすい育児の考え方について、いくつか項目に分けてお話をさせていただきました。その中で「自己決定」ができる環境の大切さについてお話をさせていただきましたが、今回はそのことをもう少し掘り下げてお話しさせていただきます。先月は「着る服を自分で決める」ことなどについてのお話でしたが、今回は「時間の使い方」についてです。

小学校以降、大人になっても、この「時間の使い方」の上手い下手は様々なことに影響を及ぼします。例えば小学校にあがると「宿題をする時間」「テレビを見る時間」「寝る時間」「おやつを食べる時間」など様々な時間の使い方が大切になります。これを人に言われて行うのか、自分で自律的に行うのかで学習への取り組み方、余暇の過ごし方など生活における様々な場面、また大人になれば仕事の仕方も変わってくることはお分かりになるかと思います。

保育園において子どもたちは時間の使い方を、環境を通して学ぶのですが、それは例えば保育室内の空間が「寝・遊・食」のゾーン環境がそれぞれ独立していることがまず一つにあります。この環境は子どもたちが一つ一つの活動の切り替えを「自律的に」「自分で決めて」動ける余白を残して保育を行うためのものです。つまり先生たちが一斉に切り替えさせるのではなく、一人一人のペースで切り替えるタイミングを待ってあげます。そうすることで時間の使い方を「自律的に」「自己決定」することを身に付けていきます。これは保育所保育指針にある「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」にある「見通しをもった行動」や「規範意識の芽生え」の部分の育ちであり、この姿が小学校以降に大切になってくる「学びに向かう力」の育ちです。このことは誤解されていることが多いですが、乳幼児期に大切なのは、このように「学びに向かう力」の土台であって、教育の先取りをすることではありません。

保育の中ではこのように子どもの発達に応じた環境設定をし、発達を支援していますが、これは保育園の環境を通すことだけでは不十分です。家庭での育児が同じ方向を向き、同じような環境設定下で育つことで効果が発揮されます。つまり、乳幼児期にご家庭で過ごす際に、「時間の区切りを子どもと一緒に決めていくこと」を大切にしていきたいということです。例えばテレビを見る場面なら、見る前に子どもと一緒に時間または番組などを決めて、終わったらテレビを消す、また、おやつを食べる場面なら、どこまで食べたならおやつの時間は終わりにし、それ以降は食べないなどです。これらは「事前に子どもと一緒に決めること」がとても重要です。

小学校以降にこれらの力を身に付けていくことはとても大変です。おそらく倍以上の時間と労力が必要になります。その時に慌てることなく、子どもに負担を掛けさせないためにも、今しかないこの乳幼児期の大切な時間を丁寧にお過ごしください。保育園は子育てプロ集団として保護者の皆様を全力サポートしてまいります。お困りのことがありましたら、いつでも気軽にお声がけください。